

日本民家園 花便り 8月号 (2)

～暮らしと植物～



タカサゴユリ 高砂百合 正面玄関ほか
別名はホソバテッポウユリ(細葉鉄砲百合)。台湾原産で日本には大正時代に観賞用として導入されました。ヤマユリやオニユリは種蒔きから開花まで数年もかかりますが、タカサゴユリは1~2年で開花します。



クサギ 臭木 正面入口斜面ほか
名前の由来は、葉に独特な臭いがあるから。しかし葉は薬用だけでなく、山菜やお茶としても利用されてきました。花は良い香りがします。青色の染料がとれる植物は限られ、インディゴを含む植物(藍)の葉とクサギの果実です。



ククイモモドキ 菊芋擬き 正面入口斜面
別名、ヒメヒマワリ。ククイモ(菊芋)によく似た花を咲かせるのでこの名前がつきました。ククイモの根はショウガのような芋(塊茎)になり、味噌漬けなど食用になります。残念ながら、ククイモモドキには芋はできません。



ムクゲ 槿 佐々木家
蕾、花、果実、茎、根、つまり全株が民間薬です。奈良時代に薬用として渡来したようですが、剪定に強く、枝の分岐もはやいので垣根や庭木などの観賞用に利用されることが多いです。大韓民国の国花です。



ナス 茄子 北村家畑
馴染みのある品種は数種類ほどですが、日本だけでも180種類、世界には1000種類もあるナス。原産地はインドだそうです。日本では奈良時代にナスの栽培が始まり、江戸時代になって庶民の間でも食されるようになりました。